

全国ユース 環境ネットワーク

第1回 全国ユース環境活動発表大会

「第1回 全国ユース環境活動発表大会」

主催：全国ユース環境活動発表大会実行委員会

環境省

独立行政法人 環境再生保全機構

国連大学 サステナビリティ高等研究所

2016年2月14日（日）



第1回 全国ユース環境活動発表大会



2月13日、14日の2日間、東京の国連大学で第1回全国ユース環境活動発表大会が開催されました。1日目は「ESD学びあいフォーラム」が、2日目には発表の本番「全国ユース環境活動発表大会」が行われ、高校生の熱い想いが会場中を満たしました。表彰式には丸川環境大臣も出席。2日間の様子をレポートいたします。

ご挨拶



環境大臣 丸川 珠代 氏

本日は、「第1回全国ユース環境活動発表大会」に、全国から大勢の方にご参加いただき、主催者として、まず御礼申し上げます。

高校生の皆さんにおかれては、素晴らしい発表をありがとうございました。活動の内容を見ると、調査研究、設備・商品開発、地域への普及啓発活動など多岐にわたり、高校生ならではの創意工夫がなされた素晴らしい取組だと思います。また、審査委員の方におかれましては、長時間にわたり審査をしていただき、誠にありがとうございました。この場を借りて御礼を申し上げます。

本日、ご発表いただいた取組は、どれも持続可能な社会の形成につながるものです。2014年12月に国連総会で採択された「ESD(持続可能な開発のための教育)に関するグローバル・アクション・プログラム」においては、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を送るためには、皆さんのような若者が積極的に社会に参加し、変革を進めていくことが重要とされています。

高校生の皆さんは、いわば、このかけがえのない地球を未来につなぐ担い手となる存在です。この2日間で得た「学び」や「つながり」を通じて、今後は、地球的な視野をもって環境活動に取り組み、ぜひ、その成果を世界に向けて発信いただければと思います。

最後に、本日ご来場の方々のますますのご発展を祈念いたしまして、簡単ではございますが、私のごあいさつとさせていただきます。

全国から131件の応募があった中、書類選考によって選ばれた20校が全国大会の会場、国連大学ウ・タント国際会議場に足を運びました。厳正なる審査の結果、環境大臣賞、環境再生保全機構 理事長賞、先生が選ぶ特別賞、高校生が選ぶ特別賞はそれぞれ以下の高校に決定。その他の高校には優秀賞が授与されました。



環境大臣賞

副賞：海外での環境活動体験

静岡県立静岡農業高等学校 松葉研究班

「三保松原の環境づくりを目的とした循環型松原共生プロジェクト」

世界文化遺産である三保松原は、以前の7割にまで本数を減らしている。その原因を観光バス等による環境汚染、放置松葉による土壌の富栄養化によるものと着目。地域住民とともに松葉かきを行い、松葉の入浴

剤を開発し、売上の一部を観光客や地域住民などへの啓蒙活動費に充てるとともに、松原から離れた駐車場利用推進の呼びかけなども行っている。



環境再生保全機構 理事長賞

副賞：国内での環境活動体験

京都市立伏見工業高等学校 マイクロ水力発電グループ

「水車プロジェクト マイクロ水力発電で用水路を活かし里山環境を守る」

螺旋開放型可搬式のマイクロ水力発電を用いて用水路でのエネルギー創出という価値を生み出す研究。地元で修理運用ができることを条件に、効率のよい水車の開発

を行ってきた。水車は海外にも渡り、好評を得ている。今後も中山間地域を中心にマイクロ水力発電の台数を増やしていく予定。

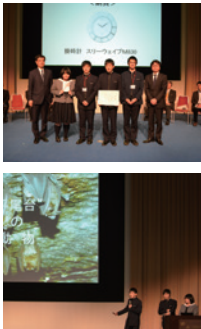


先生が選ぶ特別賞

東筑紫学園高等学校 理科部 広谷湿原保全プロジェクト

「広谷湿原を含む平尾台カルストをラムサール条約に!!」

広谷湿原は日本で唯一の湿地で、研究調査により短期間のうちに湿原面積が大きく減少していることが分かった。この原因を2000年の湿原保全工事と予測。人の手で壊してしまった自然の時間軸を元に戻すべく地域と一緒に活動を行っている。



高校生が選ぶ特別賞

愛知県立佐屋高等学校 除草戦隊アヒレンジャー

「アヒル農法でホタル舞う水田環境を実現!!」

無農薬のアヒル農法で農地の環境を守りつつ、生物多様性を守る活動。アヒルは近隣農家にも貸し出し、地域での環境保全に取り組んでいる。今年度はさらにゲンジボタルの養殖、放流を行い、地域環境の保全を推進した。



審査委員講評（敬称略、委員長以下50音順）



委員長 小澤 紀美子

東京学芸大学名誉教授
それぞれの活動を通して、『学び』を引き寄せる力を皆さんの発表から見た気がします。



委員 筒井 隆司

WWF(世界自然保護基金)ジャパン事務局長
地元の自然を大事にして、育て、価値として訴えていく皆さんの活動を聞いて嬉しく思いました。



委員 林田 昌也

キリン株式会社
執行役員CSV本部CSV推進部長
学校だけでなく地域と一緒に、コミュニティとして活動していく視点が素晴らしいと感じました。



委員 深見 正仁

環境省 大臣官房審議官
皆さんが21世紀の社会を担っていく、その力を今つけているんだと確信しました。



委員 福井 光彦

独立行政法人環境再生保全機構理事長
今の活動にNPOやNGOとの連携、海外への情報発信や海外との連携を加えていってほしいです。



委員 松井 孝夫

全国高校生自然環境サミット代表理事
皆さんの活動が実社会に出たときにどんな効果があるのか、どんな成果があげられるのかも聞きたかったです。

第1回 全国ユース環境活動発表大会

国連大学サステナビリティ高等研究所

今回の会場は、東京・青山にある国連大学ウ・タント国際会議場。国連大学はグローバルな研究機関であり、大学院の教育機関。その中のサステナビリティ高等研究所では、研究活動や能力育成を通じて、社会的、経済的、環境的側面から持続可能な未来に貢献しています。



国連大学



ウ・タント国際会議場

主催 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
(環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステナビリティ高等研究所)

協力 認定NPO法人 JUON NETWORK、NPO法人エコ・リーグ、
全国大学生環境活動コンテスト実行委員会、WWF ジャパン

協賛 キリン株式会社、協栄産業株式会社

環境活動発表大会参加校一覧

北海道旭川農業高等学校

森林環境班

ササの有効利用2015 ～森林バイオマスとしてのササ資源の利用～

造林においてササは障害要因である。ササをバイオマスとしてキノコの菌床および廃菌床から紙を創りだす研究で、紙を創りだす過程までに電気を使用しない。来年度はササ紙を利用した苗木ポットの実用化をめざす。

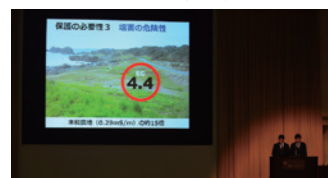


青森県立名久井農業高等学校

TEAM FLORA PHOTONICS

種差海岸におけるサクラソウ自生地の保全活動

東日本大震災の津波により種差海岸に自生するサクラソウは塩害に見舞われていた。何もデータのない中で2013年より地道な環境調査を続け、現在では人工授粉による実験的な保護活動を行っている。



山形県立村山産業高等学校

農業部バイオ研究班

高校生の挑戦 県民を巻き込んだ保護活動はできるのか？

発芽率の低いオキナグサにバイオテクノロジーを用いて発芽率を高めるとともに、遺伝子の保存を可能にした。オキナグサによる環境学習プログラムを立ち上げ、地域住民を巻き込んだ活動を展開している。



群馬県立伊勢崎興陽高等学校

植物バイオ研究部

廃棄野菜の総合的な活用 ～興陽E3から興陽E4へ～

野菜の非可食部からバイオエタノールを生成したが、抽出にかかる手間とエネルギーが問題に。発酵液をそのまま土壌に撒くことで土壌消毒と堆肥の二重の効果が得られることに注目し、慣行法との比較栽培実験を行っている。



お茶の水女子大学附属高等学校

グローバル総合・環境・服チーム

ファッションと環境問題 ～(服)で地球に幸(福)を～

身近な服について、生産過程での環境負荷やリサイクル率の低さを啓蒙しながら意識改革を促す活動。意識調査や体験活動を行ったり、ディスカッション、Webページ(日本語、英語)を通して実情を訴えている。



静岡県立富岳館高等学校

キノコ研究班

富士で生まれた「究極のエコ資材」～被災地の緑を守る～

キノコが出す植物成長調整物質(AHX)を、津波被害を受けた「堤防の法面緑化」「沿岸水田地域の塩害への対策」に役立てる。AHXは塩や乾燥のストレス対策に効くことが分かり、被災地だけでなく世界中の地域で役に立つ可能性がある。



名古屋市立名古屋商業高等学校

商品開発研究班

葦から“Zoo”

葦は近年、立ち枯れたまま放置されていることが多い。その葦を、紙→糸→布→製品化することに加え地域への啓蒙活動を行い、有効利用を促すことで自然環境保全に繋げる。製品化はされたが、コスト面など課題はまだ残されている。



岐阜県立加茂農林高等学校

林業工学科 環境班

ポップコーンで日本を爆発!! ～耕作放棄地の活用方法の提案～

日本に多く存在する耕作放棄地問題を解決するべく、ポップコーン用の豆を栽培して耕作放棄地を蘇らせる。栽培された国産、無農薬、高品質の豆は海外産の豆の数倍の値段がついた。これからは規模を拡大していくつもりだ。



京都府立綾部高等学校

分析化学部

由良川レンジャー緊急出動! 由良川を守れ!

不法投棄などの問題で由良川の水質悪化が心配されている中で、地域への啓蒙活動を行うとともに、定期的なゴミ拾い活動を行ってきた。小学校や幼稚園などへの出前授業も行い、由良川の素晴らしさを訴えている。



清風学園 清風中学校・高等学校

生物部

守ろう、八尾の生態系!! ニッポンバラタナゴとドビ流し

絶滅危惧種のニッポンバラタナゴの保護を通して、地域の生物多様性を保全する活動。上流での森林整備やドビ流し(池干し)を行いながら調査を進めている。現在、ニッポンバラタナゴは約3万尾まで自然再生している。



兵庫県立播磨農業高等学校

畜産科肉畜コース鶏班

ゼロ・エミッションで兵庫を元気に～播農から始まる新たな物語～

廃棄物として出た醤油粕を鶏のエサとして添加することで卵の品質向上が見られた上に、廃棄処分費、飼料代の削減につながった。現在では竹チップをそのまま飼料として与えたり、酒粕を使った飼料を開発、実験中である。



山陽女子中学校・高等学校

地歴部

瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての取り組み

目に見えない海底ゴミを可視化する「見える化」では発生地域、移動経路と時間、深度別堆積量を提示。内陸部から沿岸部にかけて流域を結びつける「つながる化」では海ゴミ展示や生活ゴミを減らすエコクッキングなどを実施した。



徳島県立小松島西高等学校 勝浦校 (徳島県立新野高等学校)

緑のリサイクルソーシャル・エコ・プロジェクト・チーム

緑のリサイクルモデル・刈草堆肥でストップ温暖化!

焼却処分されていた「刈草」を土壤改良剤「もったいない2号」にイノベーションし、緑のカーテンに使用することで、CO2や刈草処分費を削減。今後も地域や小学生などを巻き込んで緑のカーテン運動を広めていく。



愛媛県立宇和島水産高等学校

水産増殖科

ESDの観点による宇和海の環境保全活動

森里海、そして人と人とのつながりをテーマに水産業、環境保全で活躍できる人材育成を目的にさまざまな取組をおこなっている。現在ではESDの観点から環境教育プログラムをNPO法人や大学などと連携して作成中である。



大分県立大分東高等学校

リボベジ研究会

いつでも・だれでも・どこでもできるエコ活動。リボベジ

リボベジとは野菜の切れ端をもう一度食べられる状態に栽培する野菜のこと。切れ端を水につけておくだけで可食部が再生し、ゴミの減量にもつながる。小学校での出前授業やイベントPRを行った結果、県民運動として広がっている。



長崎県立島原農業高等学校

食品加工部

循環型椎茸菌床栽培方法及びバイオエタノールの生成

椎茸の石づきからバイオエタノールを作りだし、さらに発酵残さを椎茸菌床に再利用する技術も開発。3.6tの石づきから250kgのバイオエタノール、発酵残さから1.2tの椎茸生産が見込まれる「循環型椎茸栽培技術」を作りあげた。



ESD 学びあいフォーラム

ESD 学びあいフォーラム

第1回 全国ユース環境活動発表大会の初日は気候変動、ESDについて学ぶフォーラムを開催。気象予報士の藤森氏からは気候変動について、立教大学の阿部教授からはESDについてそれぞれ講義していただきました。2つの講義を受けて行われたワークショップは、持続可能な社会を構築する上で、高校生が自分自身の未来像について考える取組となりました。

私達の暮らしと地球温暖化

NPO法人キャスターネットワーク代表
気象キャスター、気象予報士

藤森 涼子 氏

「IPCCの検証によって地球温暖化の原因は、人間の活動によって引き起こされている可能性がとて高い。」という話から始まり、近年起こった気象災害や、身近な天候や気温といったものを題材に取り上げながら、具体的な数字やクイズ形式で分かり易く説明。環境省が発信している国民運動『Cool Choice』の話も取り上げ、「今日聞いた話を誰かに伝えることも温暖化対策の一つ。今できること、大人になったらできることを自身の問題として考えて行動してってください。」と高校生に訴え、話を結ばれました。



藤森 涼子 氏

二酸化炭素は海水に溶けやすいことを実験で見せる

ESD 概論

立教大学教授 阿部 治 氏

『ESD(Education for Sustainable Development)の10年』は2014年に岡山と名古屋で国際会議が行われ幕を閉じたが、それ以降2030年までに世界のさまざまな問題を解決したいと2030年目標(2030アジェンダ)が国連で採択されました。阿部教授は「人と自然の関わり(安全な環境)がある上で、人と人の関わり(健全な社会)が構築され、人と社会の関わり(経済)が潤滑に回ります。ESDは、いろんなものとの繋がりを想像して、関係性を創造するという2つのイメージネーションを育てる人づくりこそが本質。ユースは存在自体がこれからの地球の希望です。」と話されました。



阿部 治 教授

大学生企画によるワークショップ

上記二氏による講義を聞き、気候変動問題やESDについて学んだ上で、環境活動を行っている大学生が企画・ファシリテーターを担ったワークショップが行われました。自己紹介用紙を使った無言、声を出してのコミュニケーションなどで緊張をほぐした後、参加した高校生たちは複数のグループに。グループでは環境に関わる分野で活躍している30代～40代の社会人が経験してきた環境活動をするうえでの楽しさ、苦しさを高校生に伝えました。最後にそれまでの講義、ワークショップの内容を基に「30年後の自分」を考え、さらにそこからさかのぼる形で、そのためにはどんな10年後、5年後の自分が必要かをワークシートに書き出しました。高校生たちにとっては、自分自身のこれからについてより具体的に考えるきっかけとなったはずです。(文・NPO法人エコ・リーグ 早稲田大学4年 長島 匠)



ワークショップの内容を
大学生が説明



各テーブルのファシリテーターも大学生が担当

ワークショップ

「私たちにできること ～持続可能な社会の実現に向けて～」

ワークショップには講義をしてくれた阿部教授をはじめ、主催の国連大学サステナビリティ高等研究所の武部はな氏、一般社団法人 GiFT(グローバル教育推進プロジェクト)専務理事の辰野まどか氏に加え、社会人、大学生が加わり、ユース世代だけでなく幅広い世代・分野の交流が実現しました。各高校生からは自分たちの活動経験を通じた意見や将来の夢などさまざまな意見が出て、世代間を越えた意見交換ができたワークショップとなりました。



若い人たちに
環境問題を自分たちで
解決していく
“楽しさ”を知ってもらう!!

企業に入って
海外で環境保全
プロジェクトに
携わりたい!

林業の指導員として、
幼い子どもに魅力などを教え、
林業従事者の高齢化を改善し、
山、森林の保全を行う。

自分たちの活動を通じて、
緑化運動を展開し、
植物の魅力を全国各地に
発信していく!

今の活動を続けていき、
母校で私たちの活動についての
授業をして後生へ
伝えていきたい。

「文化」「人口」「環境」
「発展途上国」「地域活性」を
追求し国連機関に携わる!!

高校生の自主的な交流環境活動

高校生が創る自然体験の場

全国高校生自然環境サミット

執筆：群馬県立尾瀬高等学校 自然環境科3年 井上風花

全国高校生自然環境サミットは、生徒が実行委員となって夏休みの3日間で行われる活動で、「自然との共生」をテーマに開催地のすばらしい自然環境を舞台に、雄大で美しい景観に触れ、自然の逞しさや優しさを体験するとともに、自然と人間との関わりについて考える機会を与えてくれる活動です。また、このサミットはそれぞれの自然や地域の良さを再認識させてくれます。



赤城山でのフィールドワーク

全国高校生自然環境サミットの活動

私は2014年夏、2年生の時に群馬県の赤城山で開かれた第15回サミットに実行委員として初めて参加しました。1日目と2日目では県立ぐんま昆虫の森にて里山の自然や文化について学んだり、赤城山の森林・湖沼・湿原やマツの立ち枯れを観察したりするなど、フィールドワークを行い、最終日には3日間を振り返り、サミット終了後も自分が行うことを宣言する「自然環境宣言」を行いました。このように100名近い参加者およびスタッフが自然と人間との関わりについて考えを深めました。

そして、私はさらに翌15年夏に東京都心



昆虫の森で養蚕技術(座繰り)を体験

部で開催された第16回サミットに参加しました。東京都心部は私の勝手なイメージでは、自然がないと想像していましたが、現地に行き活動してみると自然が残っていたことに驚きました。



活動を振り返るなどグループワークも多い

サミットで知り合った人とは今でも連絡を取るなど交流が続いています。サミットはそこにある自然について触れたり学んだりするだけでなく、交流や体験を通してその地域の魅力を再認識できる素晴らしい活動だと思います。

第17回 全国高校生自然環境サミット
2016年8月8日(月)~10日(水)
島根県立吉賀高等学校にて開催予定

主な参加校

群馬県立尾瀬高等学校
高知県立四万十高等学校
佐賀県立唐津青翔高等学校
千葉県立国府台高等学校
北海道標茶高等学校
群馬県立中央中等教育学校
樹徳高等学校
目黒学院高等学校
埼玉県立いずみ高等学校
東京都立つばさ総合高等学校
島根県立吉賀高等学校

連絡先

群馬県立尾瀬高等学校自然環境科
〒378-0301 群馬県沼田市利根町平川 1406
TEL: 0278-56-2310
FAX: 0278-56-3720
MAIL: oze-n@oze-hs.gsn.ed.jp (自然環境科代表)
HP: <http://www.oze-hs.gsn.ed.jp>

高校生が自主的に開催する環境イベント

高校生環境フォーラム

執筆：慶應義塾湘南藤沢高等部 2015年度代表 橋爪真理

皆さんの高校では、環境活動を行っていますか。また、それらを積極的に外へ発信していますか。

いくら素晴らしい活動を行っていたとしても、それが校内だけに留まっていたら、勿体ないのではないのでしょうか。

私たち高校生環境連盟の主催する年2回の高校生環境フォーラムでは、環境活動をする高校生の発表の場、そして交流の場を提供しています。



ポスターセッションによる活動発表



連盟手作りワークショップ

高校生環境フォーラムとは、環境活動や研究活動を行う高校生の発表の場として、毎年3月と7月に、広く一般向けに開催されるイベントです。活動発表やワークショップ等による情報交換や交流をきっかけに、高校生の活動が活発化していくことを目的として

紹介する3団体は、高校生が中心になり、いくつもの高校が集まり交流活動をしています。
1校だけではなく、他校と情報交換や共同作業をすることが、大変価値ある体験になっています。

環境に興味のある人、みんな集まれ

高校生環境サミット

執筆：東京都立つばさ総合高等学校 ISO委員会委員長 森谷裕里

2004年にISO14001の認証を取得して以来、本校はさまざまな環境活動を行っています。今年度12回目を迎えた「高校生環境サミット」もその一つです。サミットは高校や大学、企業やNPO、法人などが一堂に集いお互いの環境活動を発表し、交流する「場」を作ることを目指しISO委員会が毎年運営しています。



パネル展示の様子

サミットは基調講演、パネル展示、実践発表の3つで出来ています。

今年度は、最初に国立教育政策研究所総括研究官の五島政一先生に「教育の中の環境」という演題で基調講演をお願いし、授業の中で「環境」がどう扱われているかお聞きしました。毎年さまざまな分野の方に高校生に向けた講演をお願いしています。次に企業や法人、NPOや大学、高校などの団体にパネル展示・発表を行っていただきました。今年度は29の団体の発表になりました。お互いの活動を発表し情報交換を行うことで、新しい知識や考え方、視点を得ることができ有意義な時間となりました。最後に、6つの高校による日頃の環境活動や研究成果の



基調講演の様子

発表を行っていただきました。

私たちは、サミット開催を通じて、高校生自身の環境意識をより一層高め、広げていくことを目指しています。すでに来年度の計画も始まりました。ぜひ多くの方のご参加をお待ちいたしております。



実践発表の様子

第13回 高校生環境サミット
2016年11月23日(祝)
東京都立つばさ総合高校にて開催予定



パネル展示の様子

主な参加校

早稲田大学高等学院
群馬県立尾瀬高等学校
慶應義塾湘南藤沢高等部
工学院大学附属高等学校
千葉県立国府台高等学校
実践学園高等学校
東京農業大学第一高等学校
東京都立小平高等学校 家庭科部
東京都立多摩科学技術高等学校

連絡先

東京都立つばさ総合高等学校
〒144-8533 東京都大田区本羽田3-11-5
TEL: 03-5737-0151
FAX: 03-5737-0154
HP: <http://www.tsubasa-h.metro.tokyo.jp/>

います。また、この企画から運営までの全てを、有志の高校生から成る高校生環境連盟が行っています。連盟・環境フォーラム共に、高校生なら誰でも参加することができ、個人・団体・学校等の参加の形態は問いません。

既に環境活動を行っている高校生にとって

は、その活動を発展させるヒントを得られる場であるほか、現時点で何も行っていない高校生にとっては、新しく環境活動を始めるきっかけを

得られる場でもあります。

現在、第25回「高校生環境フォーラム」2016年3月29日(火)への参加者はもちろんのこと、連盟に参加して下さる高校、活動発表して下さる高校も募集しております。最新の情報は連盟HPから、お問い合わせは右記の連絡先からお願い致します。

第25回 高校生環境フォーラム
2016年3月29日(火) 10:00~16:30
場所：早稲田大学高等学院にて開催予定



連盟の月例ミーティング

主な参加校

慶應義塾湘南藤沢高等部
早稲田大学高等学院
都立多摩科学技術高等学校
実践学園高等学校

アドバイザー

本杉秀穂 (早稲田大学高等学院教諭)
成田宏昭 (慶應義塾湘南藤沢高等部教諭)

連絡先

koukanren@hotmail.com



参加団体活動発表

COP21にオブザーバーとして参加しました。

～世界のユース世代に 会って感じたこと～

All Japan Youth Eco-club 坂田 弥優 (さかた みゆ)



ユースの行う環境活動の重要性 ～ecocon & COP21～

私は2015年に開催された「第13回全国大学生環境コンテスト」(ecocon)でスタッフをしました。ecoconに参加したのは、自分と同じユースが全国で行っている環境活動を知りたいと思ったからです。私は小学生から日本環境協会のこどもエコクラブに入り環境活動を行ってきました。ゴミ拾いや花壇の植え付けなど地域内で地域の方と一緒にする活動が中心でした。高校を卒業しても環境活動を続けたいと思い、現在も今まで行ってきた活動はもちろん、今まで学ぶことができなかったことを学び、伝えることができたかと思ひ活動をしています。ecoconは全国の大学生が集まり活動を発信し、競うコンテストです。同じ年代が集まり、自分たちの活動を紹介するだけでなく、振り返り考えて持ち帰るため、多くの刺激を受けます。私も、スタッフとして参加したことで、刺激を受けただけでなく、大学生やユースという世代がいかに重要か実感しました。

しかし、日本にただでいるだけではまだまだ分からないことがたくさんあります。環境を学ぶ中で



日本パビリオン

やはり気候変動は環境活動をする上で重要な問題の一つだと感じています。今回COP21にはオブザーバーバッジを

大学からいただき参加しました。COP21に参加することで普段は報道でしか知ることのできない内容や報道されないことを自分の目で見て感じ今後の活動に役立てたいと考えました。

私が参加したのは2週間のうちの後半の週だったため、より詰まった話し合いが行われていました。オブザーバーバッジをいただいたので会議の行われるブルーゾーンへ入ることができました。

私が今回注目していたのはもちろん「パリ協定」の合意ですが、途上国と日本の関係、ユース世代の発言も現地で見てみたいと思っていました。



会場のメイン広場

現地では、海外のユースの活動を発信している会場を回りました。海外で活動しているユースは自分や自分の国だけでなく途上国などの周りの国々へ、環境に良いもので援助できないかと考えている人が多くいました。また、日本だけでなく海外のユースと話をし改めて、日本のユースがまだまだ世界に追いついていないのではと感じまし

た。そのためにまず自分の国を知ることが大切だと気付きました。

日本パビリオンや日本主催の発表の場では、日本に住む私も初めて聞くような取り組みを知ることができました。実際に、会場内で海外の方とお話しすると、「日本で取り組まれているこの取り組みで私の国は助かっているよ」と話しかけてくださった方もいました。今回は知っている取り組みでしたが、もっと日本にも目を向けて学ばなくては、自分の国なのに説明できないのはもったいないと感じました。

私はCOP21でユース世代の重要性、日本の国での取り組みを知ることの大切さを感じました。

日本に帰国後に開催されたecoconでは、多くの大学生が自分たちの活動を工夫を凝らしプレゼンするだけでなく、問題点や改善点を振り返りながらこれからの活動について考えていきます。ecoconに出場する団体の多くは地域を元気にしていきたいという思いに、環境を守りたいという思いが結びついたものが多いように感じました。

COP21へ行き、ecoconへ参加したことでやはりユース、ユースの中でも自由に時間を使える大学生のうちに多くのものを目で見て体験して、吸収することが、これからの環境活動には大切なのではないかと考えます。また、地域や日本に目を向けるのはもちろん、世界の動きにも敏感になることで、日本のでの活動をより良いものにできると感じます。

坂田弥優さんは、ecoconのスタッフです。

ecocon

全国大学生環境活動コンテスト

みなさんは、「ecocon」って、聞いたことがありますか？

正式名称は、「全国大学生環境活動コンテスト」と言います。

「ecocon」は、全国の大学生環境活動団体の活性化に取り組むことで、持続可能な社会を実現することを目指しています。2015年12月には、13回目のコンテストを開催しました。例年12月に2日間かけて開催するコンテストには、これまで全国各地から延べ600団体以上、延べ10,000人以上が参加しています。企画づくりは大学生が中心となって進めていますが、社会人の事務局、アドバイザー、実行委員など、様々な人が関わりながら、コンテストやその他様々な環境イベントを開催しています。近年は、高校生の参加も部分的に受け入れていますので、ぜひ参加してみてください！

<問合せ先> 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会事務局 (担当: 北本・谷口)

TEL : 03-3580-8284

E-mail : support@ecocon.info

URL : http://www.ecocon.info/

2015年11月30日から12月13日まで、フランス・パリで、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)が行われ、新たな法的枠組みとなる「パリ協定」を含むCOP決定が採択されました。ユース(ecoconスタッフ)とWWF(世界自然保護基金)ジャパンより寄稿をもらいました。

世界各国が力を合わせるという理想へ、「パリ協定」がつないだ希望



▶ パリ協定が採択された瞬間の会議場の様子。本会議場に入れる人が限られたため、WWFなどのNGOはモニター越しにその瞬間を見守った。



▶ COP21は政府代表が話し合う国際会議だが、会場のすぐ外では、積極的な温暖化防止を求めて、多くの市民がアピール行動をする姿が見られた。



▶ 温暖化の影響を受けるのは人間だけではないことを示す動物のオブジェ。フランスの作家が再生プラスチックを使って制作し、COP21の会場に展示された。

© WWF Japan / Yumi Sato

共通ルールは作れるか

人もモノも、国境を越えて行き交う現代。環境保全に取り組む上でも、「世界の国々が協力する」ことの必要性を感じる場面がたくさんあります。

代表的な事例は、やはり地球温暖化でしょう。二酸化炭素(CO₂)を始めとする温室効果ガスは、世界が足並みを揃えて減らさなければ意味がありません。また、温暖化がもたらす影響は、すべての国に及びます。

WWF(世界自然保護基金)は、国際環境NGOとして、各国の政府に対し、積極的な温暖化対策をとるよう求める活動をおこなっています。

とはいえ、文化も、経済や社会の状況もさまざまに異なる国々が、温暖化防止のための共通ルールを作るのは大変なことです。しかも、そのルールづくりの場である国連気候変動枠組条約の締約国会議は、多数決ではなく、参加した国(昨年の会議では196カ国)すべてが合意するまで話し合うという方法をとっています。これまで、何年にもわたって話し合いが続けられてきましたが、なかなか合意は作れませんでした。



パリのCOP21会場。正面玄関には、各国の国旗をあしらった柱が並んだ。COP21に参加した国は196カ国。

あえて高い目標を

しかし昨年12月、フランスのパリで開かれた「第21回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)」で、ようやく「パリ協定」が採択されました。

その内容で、特にWWFが目玉しているのは、「世界の平均気温の上昇を、産業革命前に比べて2℃未満に抑える、そして1.5℃以下に抑える努力もする」と明記されたことです。「1.5℃以下」というのは、すでに温暖化による影響が現れ始めている島国や、開発の進んでいない途上国が、強く主張していた数字です。

現状からいえば、「1.5℃以下」という目標を達成するのは非常に困難です。それでも、合意を作るために目標を低くするのではなく、温暖化の影響に対して最も弱い立場にいる人々の意見を重んじ、あえて高い目標を掲げ、それに向かって努力する道を残したという点で、「パリ協定」には非常に重要な意味があるといえます。

この「パリ協定」を受けて、日本はどのような温暖化対策を進めていくのか。まさに「これから」が問われています。

WWFの活動をぜひご支援ください

WWFは100カ国以上で活動する地球環境保全団体です。その活動はすべて皆さまからのご寄付や募金で成り立っています。ぜひ世界の自然保護に力を貸してください。



私たちはWWFで
人と自然が調和して生きられる未来をめざして、地球環境の悪化をくい止めるさまざまな活動を実践しています。

www.wwf.or.jp

KIRIN

**キリン株式会社
基盤技術研究所**

横浜市立 横浜サイエンスフロンティア高等学校

総合飲料メーカーとして健康や環境にも配慮しているキリン株式会社。今回は横浜市金沢区にある基盤技術研究所で、環境技術によって震災復興に貢献する取組を横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校の生徒たちが聞いてきました。



先端科学を学び、グローバルに活躍することを目指す
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校のみなさん

震災復興への想い

2011年3月、東日本大震災の津波でキリン仙台工場が被災。その年の7月には震災復興支援「復興応援キリン絆プロジェクト」を創設された。2014年に当初の予定期間は経過したが、キリンでは現在でも引き続きプロジェクトを進めている。

そんな想いを持ちながら、東北海岸の防災林復興をめざす事業が進んでいる。

震災による東北の太平洋側の海岸防災林の被害は1000haにもおよび、復活させるには500万本以上のクロマツが必要になると言われている。クロマツにはマツザイセンチュウが引き起こす致命的な病気があり、この病



主幹研究員の大西さん
高度な質問にも優しく答えてくれました

気に抵抗性を持ったクロマツの生産が必須となる。しかし、抵抗性クロマツの苗は年間36万本ほどしか生産されてお

す、このままでは防災林の復活には苗の準備だけで14年以上もかかってしまう。



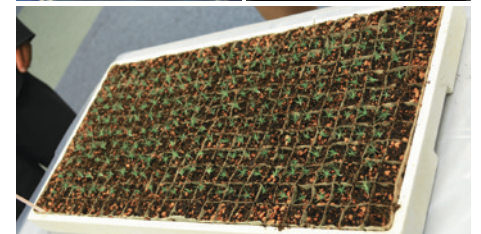
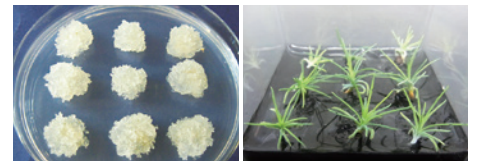
培養方法の説明を受けた上での実物に、興味津津

国との連携

この問題に対し、キリンは農林水産省プロジェクト(※注)に参画し、研究を開始した。これは抵抗性クロマツを不定胚法で作る研究だ。不定胚法とは、分化全能性細胞(遺伝子組換えによらないiPS細胞のようなもの)から胚を増殖し、その胚を発芽させることで、大量に苗を作る技術だ。クロマツの不定胚法には多くの課題があったが、現在では小さな苗(プラグ苗)を生産する技

術の確立に目処がたちつつあり、今後の東北地方の海岸防災林の早期の復興に向けて活動を続けている。

キリンではこの取組を全国の高校生に知ってもらい、一緒に東北復興を考えてもらうことを検討している。高校生でも取り組める震災復興の支援をキリンと一緒に試してみてもいいだろうか?



左上:分化全能細胞 右上:不定胚から発芽した苗
下:プラグ苗。この箱で約200株
(※注)農林水産省・農食研事業「東北地方海岸林再生に向けたマツザイセンチュウ抵抗性クロマツ種苗生産の飛躍的向上」(代表:森林総合研究所材木育種センター東北育種場)

サポート校 募集中!

本取組に興味を持って頂ける高校は、全国ユース環境ネットワーク事務局までご連絡ください。

感想

横浜サイエンスフロンティア高校



二山 晃大さん(2年)

遺伝子に多様性を持たせることで、絶滅しにくい森を作っていくところに感心しました。



松尾 拓海さん(1年)

種からではない育成技術に驚きました。授業で取り上げて、学校のみんなにも知ってもらいたいです。



山縣 咲季さん(1年)

震災の支援は難しいことばかりじゃない。私たちが勉強することでも震災支援に繋がるんだと思いました。



加藤 大輔さん(1年)

「一つの商品にもあらゆる科学技術が詰まっている」の意味が理解できました。すごい技術でした。



岡部 奈々子さん(1年)

初めて知る技術も多くて、楽しかったです。同じようなプログラムがあればまた参加したいです。



眞田 理子さん(1年)

普段は飲み物でしか接点がありませんが、知らないところで復興に関わる研究を進めていたことにビックリしました。

KYOEI 協栄産業株式会社 ジャパンテック株式会社 栃木県立小山高等学校

ペットボトルリサイクルで世界トップの技術を持つ協栄産業グループ。栃木県立小山高等学校が協栄産業株式会社とグループ会社であるジャパンテック株式会社を訪れ、協栄産業社長が持つリサイクルにかける想いを聞いてきました。



2018年に創立100周年を迎える栃木県立小山高等学校 数理科学科のみなさん

ペットボトルからペットボトルへ

ペットボトルの素材であるPET樹脂は、リサイクルの過程で材料の質が劣化してしまう。飲料用ペットボトルに用いるPET樹脂には、劣化したものを使用することができないため、今までは他の製品にリサイクルされていた。協栄産業では、PET樹脂の質を落とすことなくリサイクルする技術を開発。2011年に初めてペットボトルからペットボトル(『ボトル to ボトル』)へリサイクルされた商品を世の中に出した。



仕分けられたラベルも資源として有効活用される



混じって入っているものの選別する行程。工場全体のほとんどは自動化されている

ペットボトルは都市から湧く油田

『ボトル to ボトル』技術のすごいところは、『ペットボトルを作るときに新たに石油を必要としない』ことと『石油から作るときよりも二酸化炭素排出量を63%も抑えられる』ことである。

日本では年間約60万トンの使用済みペットボトルが排出されており、特に都市部からの排出量は多い。『ボトル to ボトル』技術を用いればペットボトル=石油と同じ価値を見いだすとして、協栄産業では、ペットボトルを『都市油田』と位置づけている。

しかしながらこの技術を活かしきれない問題もある。日本の使用済みペットボトルの回収率は93%(世界1位!)であるのにも関

わらず、約2/3は海外に流出してしまっているのだ。これではせっかくの技術も活かすことはできない。

協栄産業の古澤社

長は「資源を持たない日本だからこそ、ペットボトルという資源を国内で循環させることが重要。限りある石油資源の消費を遅らせることが使命だと思っている。」と言う。

普段何気なく使っているペットボトル。リサイクル意識を持つことはもちろんだが、その行先を意識することがこれからのペットボトルリサイクルには必要なのではないだろうか。



高校生の皆さん、自分の役割を考えながら夢を達成してください!



1日およそ250万本ものペットボトルをリサイクルしている

感想

栃木県立小山高等学校

直井 雄太さん(3年)



ペットボトルからペットボトルができるなんて知らなかったです。

野田 泰登さん(3年)



『ボトル to ボトル』の技術は初めて知りました。いい経験になりました。

山中 嘉人さん(3年)



ペットボトルリサイクルの多様性を知ることができました。今後に活かしたいです。

荒井 汰智さん(2年)



古澤社長さんが築き上げてきた情熱にビックリしました。

大友 和也さん(2年)



ペットボトルに関して自分の行動がどう影響しているのか調べたいと思います。

塚原 由華さん(1年)



ペットボトルリサイクルの色んなことを知ることができました。

舘野 葵さん(1年)



ペットボトルリサイクルの意味の深さに驚きました。

京都府立桂高等学校

桂高校 TAFS「地球を守る新技術の開発」班の活動

日本固有植物『ノシバ』に注目し、2007年から研究活動が続けてきた京都府立桂高校のTAFS「地球を守る新技術の開発」班。学校や地域を飛び出し、宮城県小牛田農林高校、静岡県立富岳館高校とネットワークを作りながら、東北被災地で行なっている活動を紹介します。



宮城県小牛田農林高等学校、静岡県立富岳館高等学校の生徒とともに

多様性のある草原を創る！～東北の希少資源を活用する～

ノシバを地域に活用

桂高校TAFS「地球を守る新技術の開発」班は、日本固有の植物「ノシバ」が生息地域の環境によって性質が異なることに注目。全国各地にノシバが生息し、地域独自の進化を遂げていることを突き止めた。2009年からは、千葉県かずさDNA研究所との共同研究となり、現在までに奈良県若草山自生種・京都固有種（太閤芝）・富士芝野生種・宮城県金華山種（金華芝）・青森県種差海岸種を新たに発見し固有種として同定している。また、発見したノシバの特性を分析し、地域の緑化に活用する研究も行っている。研究班の最大の特徴は、通常10%以下の発芽率しかない自生ノシバ種子を、アルコール選別法やKOH処理・発芽容器KNC（研究班で開発）を駆使して、95%以上（2015年）の発芽率を得ることに成功、自生地を傷めず植生をそのまま復元できる技術を開発しました。この技術で増殖した京都自生芝は、京都府内の銀行・学校屋上に多様性のある自生芝を持つ屋上緑化施設を設置したり、京都將軍塚頂上部に1200年前に桓武天皇が立ったであろう芝地の再現を行っている。

ノシバで復興支援

2012年には宮城県金華山で耐塩性が高く、多様性のある固有種を発見し、潮風等で緑化しにくい海岸部の河川堤防の緑化や、震災跡地に作られた「仙台うみの杜水族館」に日本で初めて海岸部に自生する多様性のある芝として採用されるなど、復興支援に携わっている。また、この芝は本研究班によって増殖し、震災で高齢化・過疎化が加速し、耕作放棄地が増加している宮城県鳴子に

地元生産者の協力を得て20,000㎡の芝生産圃場を作り、今年から供給を開始する。

昨年、環境省の依頼で芝の名勝地、青森県種差海岸インフォメーションセンターの緑化を手掛けている。事前の調査で種差海岸の自生芝が、東北固有の種であることを確認できたが、DNAタイプが金華山ノシバ種に比べて20分の1と少なく、多様性が失われつつあり、ノシバの自生地として衰退期にあることも判明した。本研究班で開発した種子繁殖技術を活用して、種差海岸の芝を健全な天然芝地として甦らせるプロジェクトを立ち上げ、観光協会・八戸市観光課と取り組むことになっている。

環境ネットワークの創出

私達は、其々の地域で活動するにあたり、地域の協力が不可欠だと考えている。新しい自生種を発見して活用方法を見出したとしても、それらを植栽し、経過をモニタリングし維持管理することや、利用の拡大で、固有ノシバ種の供給体制を確立する等多くの課題を解決する必要がある。そこで、独自の環境ネットワークを創出し、この問題を解決しようと考え、環境活動発表会や新聞等でネットワークへの参加を呼びかけた。その結果、サンケイ農産・東日本復興株式会社（芝生産）、株式会社大林組・東北大学・かずさDNA研究所・静岡県立富岳館高校（技術協力）、宮城県小牛田農林高校・種差観光協会（現地での協力）、などが参加する環境ネットワークを創り出すことができた。さらに実証試験圃場を提供する国交省東北河川局やインフォメーションセンターの緑化を依頼した環境省東北地方環境事務所を加えると産学官の大きなネットワークができたと考えている。

復興支援に向けて

震災から5年、大震災の傷跡は決して癒えたわけではない、私達が活動する海岸部では、今も震災直後の状態の家屋が、そのままの状態に残されています。また、多くのトラックが行きかい、海岸堤防や道路の嵩上げなどの工事が続けられ、これらが完全に復旧するまでには、同じ年月以上かかるのではと考えています。私達の研究は、震災以前の状態に戻すのではなく、それ以上の環境に戻すことだと考えています。道路や堤防の緑化は、景観だけでなく環境保全にも有効で推奨されています。しかし緑化植物の種類はあまり配慮されていません。私達の取組みはこの緑化植物に地域の固有種を用い、生物多様性に配慮した地域環境を創りだすことだと考えています。最近、宮城県での有識者会議で堤防道路の緑化は、帰化植物や準帰化植物（市販ノシバ）を用いないことの提案がなされました。私達の研究の先進性が証明されたと考えています。

2012年、青森県から宮城県にかけての海岸沿いに3つの国定公園を併せて、三陸復興国立公園として指定されました。私達はこの復興公園内の緑地を固有種で緑化したいと考えています。世界は震災後、どのように復興するのか注目しています。ベースとなる植物から生物多様性を考えた、世界で初めての自然公園を、是非実現したいと考えています。

（執筆：京都府立桂高等学校 西岡 大穂）



海風に晒されてきた金華山の芝は耐塩性に優れる



種差海岸インフォメーションセンター
ノシバの野生種を守りつつ、地域に活用していく

生徒コメント

もっと多くの人にノシバを知ってもらいたいです。（左上）

吉田千紘さん（3年）

僕は、ノシバの可能性を信じています。（中上）

吉野温さん（3年）

広い視野を持って活動したいです。（左下）

石平あんりさん（3年）



支えてくれる人たちに感謝して頑張ります。（右上）

西岡大穂さん（3年）

ノシバで日本を盛り上げます。（右下）

仲山風吹さん（3年）

被災地で積極的な活動をしている京都府立桂高校(京都府)、被害の教訓を後世に伝えるために活動をしているEPO東北(宮城県)より寄稿をもらいました。

ユースのみなさんへ

東日本大震災から5年

～私たちは何を伝えていくべきか～

EPO東北(東北環境パートナーシップオフィス)

井上郡康

人の世に多くの事を問いかけた東日本大震災。あれから5年が経ちました。

沿岸部は津波に襲われ、直接津波被害を受けなかった都市部でもライフラインの停止や食糧不足に苦しみました。

仙台市にオフィスを構えるEPO東北も例外では無く、この混乱した非常時に「一体何をすべきなのか?」の問いを投げかけ続けていました。



南光台(仙台市)震災後の露店販売の様子

そんな中、EPO東北では発災から一か月が経たないうちに「3.11あの時」と題する取材活動をスタートさせました。この「3.11あの時」取材は、環境分野のNPOや行政、学校関係者等の方々が、どの様に被災し、どの様に乗り越え、何を感じているかを記録として残すことが目的です。取材は3年間で102名の方々に取材しています。

取材を通して、我々EPO東北は東日本大震災から多くの学びに触れる事になります。例えばこの大震災で広範囲にライフラインが停止した時、都心部では暖を取る事や水の確保も難しく、食料を得る為に多くの方がスーパーなどの量販店に並びました。一方で、昔ながらの生活が残っている農村部などでは、電気に頼らない薪ストーブやカマド、食料備蓄があり、都心部ほどは困っていませんでした。便利といわれている生活は、緊急時には非常に弱く、昔ながらの生活は緊急時にも強いと言えます。はたして効率性利便性を追求める事が本当に良い事なのか疑問さえ湧いてきます。またもう一つ印象深かったキーワードは「地域の伝承・地名」、正しく先人が残した智慧です。震災前までは、それほど認識されていなかった伝承や地名が、今回の大震災で多くの事が検証されています。例えば仙台平野にある「波分(なみわけ)神社」と呼ばれる神社は、西暦869年に起きた貞観(じょうがん)地震で津波がここまで来たという警告を伝えるためにつくられたものだと言われていますし、地名についても津波をはじめとする自然災害への注意を促すものが多く存在しています。そのような話を聞くと、先人たちが私たち子孫に何かを残そうという気持ちに感動さえ覚えます。我々EPO東北もそうありたいと思います。

震災を経験して、震災の取材活動に取り組んで



きた人間として、「震災から得た教訓・先人からの教訓」と「今ここに生きた人はどのような気持ちでどのように生きて来たのか」ということを記していくことが大切なのだと考えています。

東日本大震災では15,894名(警察庁広報資料H28.2.10)の方が亡くなり、5年が経とうとしている今でも2,562名(同資料)の方の行方が分かっていません。これだけの被害を出して得た教訓を、被害にあわれた方たちの為にも、忘れることなく後世に伝え残していく事が、この時代を生きた人間の責務だと考えています。私たちが居なくなった時に、後の人たちは何かを感じ取ってくれることを信じています。



「3.11あの時」ヒヤリング風景

EPO東北(東北環境パートナーシップオフィス)とは



EPO TOHOKU
東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku

EPO東北は、2010年度4月1日から環境省東北地方環境事務所と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)が協働して運営しています。

EPO東北は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。持続可能な社会を目指したよりよい環境活動を進めるためには、行政や企業、市民、団体など、さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協力していくことが重要です。そこで、地域の環境情報を発信し、それぞれが交流する機会を提供することで、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの人がEPO東北をきっかけにして出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

<問合せ先> EPO東北(東北環境パートナーシップオフィス)

TEL : 022-290-7179

E-mail : info@epo-tohoku.jp

URL : <http://www.epo-tohoku.jp/>

2016 Spring
VOL.2

全国ユース環境ネットワーク

KIRIN KYOJI

「全国ユース環境活動発表大会」は、環境省と独立行政法人環境再生保全機構が行う全国ユース環境ネットワーク促進事業の一環です。ユースが創造力を発揮して、環境活動の発表を通じ、相互研鑽の場を提供することを目的としています。今回は、全国のたくさんの高校生から応募をいただきました。ありがとうございました。



全国ユース環境活動発表大会 応募高校一覧

北海道函館水産高等学校 北のくにづくりチーム	お茶の水女子大学附属高等学校 グローバル総合・環境・循環型社会チーム	エクセラン高等学校 環境科学コース	大阪府立園芸高等学校 ハーニービーサイエンスクラブ	愛媛県立新居浜工業高等学校 環境化学部
北海道釧路北陽高等学校 生徒会	お茶の水女子大学附属高等学校 3T project チーム	長野県飯田OIDE長姫高等学校 コンピュータ制御部	関西創価高等学校 ISS EarthKAM Project Team	福岡県立糸島農業高等学校 根っこ部
北海道帯広農業高等学校 十勝川多自然川づくり班	東京都立多摩科学技術高等学校 ボランティア部	岐阜県立大垣養老高等学校 食品科学科 湧く湧く班	神戸山手女子高等学校	大分県立玖珠美山高等学校 チーム「野菜」
クラーク記念国際高等学校 元気の泉サポーターゼミ	実践学園中学・高等学校 環境プロジェクト	岐阜県立大垣東高等学校 理数科 ハリヨ班	兵庫県立神戸商業高等学校 理科研究部	佐賀県立伊万里農林高等学校 微生物研究班
青森県立木造高等学校深浦校舎	慶応義塾湘南藤沢高等部 環境プロジェクト	岐阜県立岐山高等学校 生物部 カワニナ班	兵庫県立播磨農業高等学校 農業経営科環境プロジェクト班	佐賀県立唐津青翔高等学校 環境部
秋田県立大曲農業高等学校 生物工芸部	神奈川県立中央農業高等学校 畜産科学科	岐阜市立岐阜商業高等学校 マルチメディア研究部	和歌山県立田辺高等学校・中学校 生物部	長崎県立北松農業高等学校 動物科学部
秋田県立増田高等学校 農業科学科 水田班	法政大学女子高等学校 エコ・アクション・プロジェクトチーム	岐阜県立恵那農業高等学校 化学研究部	岡山県立高松農業高等学校 高農環境を考える会	長崎県立諫早農業高等学校 生物工芸部 固有・希少植物保護研究班
宮城県村田高等学校 JRC	神奈川県立平塚農業高等学校 果樹園芸班	岐阜県立加茂農林高等学校 林業工学科 林産班	岡山県立津山工業高等学校 工業化学科	長崎県立諫早農業高等学校 生物工芸部 新エネルギー研究班
山形県立山形工業高等学校 環境システム研究会と課研科学ボランティアグループ	加藤学園高等学校 化学部	岐阜県立岐阜工業高等学校 化学研究部	ノートルダム清心学園 清心女子高等学校 生命科学コース	熊本県立鹿本農業高等学校 バイオ研究会
山形県立村山産業高等学校 電子道場	静岡県立佐久間高等学校 ファブール委員会	愛知県立名南工業高等学校 化学工業科 ひまわりCa・Feクラブ	ノートルダム清心学園 清心女子高等学校 生物部	熊本県立八代農業高等学校泉分校 森を守るプロジェクト班
福島県立平工業高等学校 生徒会	学校法人中野学園オイスカ高等学校 ワールドキャリアコース	愛知県立久比高等学校 理科部	岡山県立岡山朝日高等学校 環境委員会	熊本県立芥洋高等学校 熊本県立天草拓心高等学校 マリン校
栃木県立宇都宮白楊高等学校 農業工学科 環境班 (環境科学部)	静岡県立浜松城北工業高等学校 環境クラブ	滋賀県立八幡工業高等学校 環境化学科	岡山理科大学附属高等学校 RIDAIFU清掃ボランティア	熊本県立第二高等学校 生物部
群馬県立尾瀬高等学校 理科部 (G-necクラブ)	山梨英和高等学校 Global Studies II	滋賀県立八日市南高等学校 花緑デザイン科 ランドスケープデザイン班	広島市立広島工業高等学校 広島市エグリーン・プロジェクト	沖縄県立南部農林高等学校 科学部
千葉県立国府台高等学校 理科研究部	山梨県立甲府南高等学校 環境委員会	京都府立木津高等学校 生徒会・園芸部	島根県立吉賀高等学校 地域クラブ	沖縄県立中部農林高等学校 エコ・リサーチ部
千葉県立船橋芝山高等学校 科学部 生物班	石川県立七尾東雲高等学校 能登の里山里海を考える会	京都府立桂高等学校 TAFS「地球を守る新技術の開発」班	出雲西高等学校 インターアクトクラブ	
獨協中学・高等学校 緑のネットワーク委員会	高岡龍谷高等学校 ボランティア部	大阪府立千里高等学校 理科研究部	香川県立高松南高等学校 農業クラブ	
東京都立つばさ総合高等学校 ISO委員会	長野県木曽青峰高等学校 林業BOYS	大阪府立園芸高等学校 ピオトゥー部	清和女子中高等学校 ユネスコスクールプロジェクト実行委員会	

発表大会出場校の
情報はP2から掲載

環境省からのお知らせ

個人賛同募集中! 未来のための取り組みに参加しましょう!



未来のために、
地球温暖化対策のための「賢い選択」
クールチョイス 検索

環境再生保全機構からのお知らせ



地球環境基金は、企業・国民の皆様方からのご寄付に国からの出資金を加え、これを原資に民間団体(環境NGO・NPO)が行う環境保全活動を支援しています。次世代に豊かな環境を引き継ぐために、地球環境基金へのご協力をお願いします。

発行: 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 全国ユース環境ネットワーク事務局

URL: <http://www.erca.go.jp/jfge> Email: youth@erca.go.jp

所在地: 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8F

TEL: 044-520-9505 FAX: 044-520-2192

